



大臣政務官 400 日を振り返って

参議院議員・薬剤師 本田 顕子

9月13日に内閣改造が行われ、第2次岸田第2次改造内閣が発足しました。

その翌々日の15日付けで私は大臣政務官の任を終え、厚生労働大臣政務官の任務を塩崎彰久衆議院議員に引き継ぎました。

昨年8月12日に大臣政務官を拝命してからの400日間は、永田町と霞ヶ関を分刻みで「行き交う」毎日でした。厚生労働行政は本当に幅広く、医療、健康、薬事、保険、公衆衛生、食品、、、等々すべてが国民生活に直結する課題ばかりで、それらの課題に取り組む厚生労働省という組織の重要性と責任・期待の大きさを改めて感じました。今回、行政機関内での制度設計や意志決定プロセスを知り、厚労省職員との関係構築ができましたことは今後の財産と思っております。

大臣政務官在任中、新型コロナへの対応は、医療提供体制の維持に努めつつ、特例的な措置・対応中心の仕組みから徐々にコロナ前の日常に移行していくこととなりました。次なる感染症有事に備えるための法整備のほか、内閣感染症危機管理統括庁や国立健康危機管理研究機構の創設などに関わることができました。9月20日に「令和5年秋開始接種」が始まり、インフルエンザも今冬での流行が懸念される中、今後も感染予防への高い意識を持ち続ける必要があると思います。

他方、薬を取り巻く環境は依然として厳しく、品質問題に端を発した医薬品の供給不足に関しては、医療を担う現場の先生方や医薬品卸売業の皆様にご負担とご心配をおかけしております。特に解熱鎮痛薬や鎮咳去痰薬などの不足は深刻な状況のため、厚生労働省の相談窓口では、解熱鎮痛薬のほか鎮咳薬や去痰薬などを対象に、個々の薬局に加えて地域の薬剤師会単位でも相談を受け付けることになりました。私としては6月の有識者検討会報告書に基づいて、薬価上および産業構造上の対応策の実現に引き続き力を尽くしてまいります。

9月29日付けで参議院自民党国会対策副委員長を拝命しました。国会対策委員会は“国対”と称され、本会議をはじめ重要法案を抱える常任委員会等の運営に関する事前協議と野党間で行うところです。自民党議員として国会運営に関わり「薬剤師から政策提言！」をモットーにこれまでの経験を更に政策実現に生かせるよう頑張っております。

